

高野山靈寶大觀

高野山靈寶大觀

昭和十七年四月十日印刷
昭和十七年四月廿日發行

非賣品

編輯者 和歌山縣高野山 堀田 眞快

發行者 和歌山縣高野山 金剛峯寺代表者 關 榮覺

印刷者 京都市中京區新町通竹屋町南入 佐藤 濱次郎

印刷所 京都市中京區新町通竹屋町南入 株式會社便利堂 中村竹四郎

發行所 和歌山縣高野山 總本山 金剛峯寺



王聖光

王聖光
座主大仙正家
十全



高野山靈寶大觀序言

惟るに、宗祖弘法大師立教開宗の本誓たる、鎮護國家濟世利民にあり、大師二世の行藏甚だ多彩なりと雖も遂に即ちこゝに歸す。高野開創もとより其の所にして、奉爲鎮國安民とは金剛峯寺建立最初における大師の啓白なり。

抑、大師、その三地深禪の宿昔は問はず營にその一代の行化を以て見るも正に不世出の英靈底に出で、實に悲智圓滿の妙覺者救世利生の大菩薩たるを信ず、而して高野開創の本趣殊勝絕無、加之、地域靈秀、是れ眞に人と機と境と渾然精靈を湧發して、高く曼荼の法幢を煽揚し普く眞言の教益を光被したるものと云うべし。こゝを以て歷朝の叡信甚だ深く四海の信仰翕然たり、然り而して之れを具象するもの實に野山無數の靈寶なりとす。試みに是れを佛像佛畫に察るに、其の性質内容に於て或は密教獨特のものあり、或は顯教諸宗のものあり、其の形式技法亦多趣多樣を網羅して、應に古今に亘る佛教藝術の粹を盡すものと云うを得む。經卷文書の類に至つては、忝くも宸翰の御寫經御立願文等は申すも畏し、上は綸旨院宣より攝關武將諸士庶民の文書に至るまで、各時代を貫きて寄進立願起請等あらゆる内容種類に及び、みな以て直に各當代國家生活の面目を如實に物語るものにして正しく國史無雙の活資料たり。その他諸の工藝、小美術品等亦頗る多く何れも一世の貴珍なり、況や宗祖大師心血の述作、入神の眞蹟及び手澤の遺寶等に至つては、朝野内外の渴仰措かざる所これ實に稀世の靈寶絶代の祕藏なり。

上述の如く滿山の祕寶無量にして現に國寶に指定されたるもの數百點、いま暫く其の重なるものを撰んで梓に附し以て 聖恩の鴻大と佛祖の靈德を表はし、又以て大方の信仰と及び耽美とに應へむとす。仍つて叙す。

高野山總本山金剛峯寺

關 榮 覺 謹 識

凡 例

一本集の題簽は龔輦指歸の文字中より撰出せり

一題字「靈光」は金剛峯寺座主藤村大僧正猊下の染筆に係
る

一建築物は國寶建造物の外は一山の規模風光の一端を髣髴せ
しむるを旨とせるも大門等を初め逸したるもの甚だ多し

目次

一	總本山金剛峯寺	
二	弘法大師御影	親王院藏
三	不動明王像	明王院藏
四	阿彌陀如來聖衆來迎圖	有志八幡講組合寺院藏
五	金剛吼菩薩像	同
六	佛涅槃圖	金剛峯寺藏
七	狩場明神像	同
	丹生明神像	同
八	不動明王立像	南院藏
九	大日如來坐像	金剛峯寺藏
一〇	孔雀明王像	同
一一	八大童子像の内	同
一二	阿閼如來立像	親王院藏

一三 寶篋印塔

金剛峯寺藏

三尊佛

同

俱利迦羅龍御劔

龍光院藏

一四五 鈎

金剛峯寺藏

五鈎鈴

同

一五 聲磬指歸

同

一六 卽身成佛品

同

一七 長慶天皇宸筆御立願文

同

一八 源賴朝自筆書狀

同

源義經自筆書狀

同

一九 弘法大師行狀繪卷

地藏院藏

二〇 山水人物圖

遍照光院藏

一 寶鏡印塔

金剛峯寺藏

三 尊佛

同

俱利迦羅龍御劍

龍光院藏

一四五 鉈

金剛峯寺藏

五 鉈

同

一五 臂指歸

同

一六 即身成佛品

同

一 總本山金剛峯寺御立願文

同

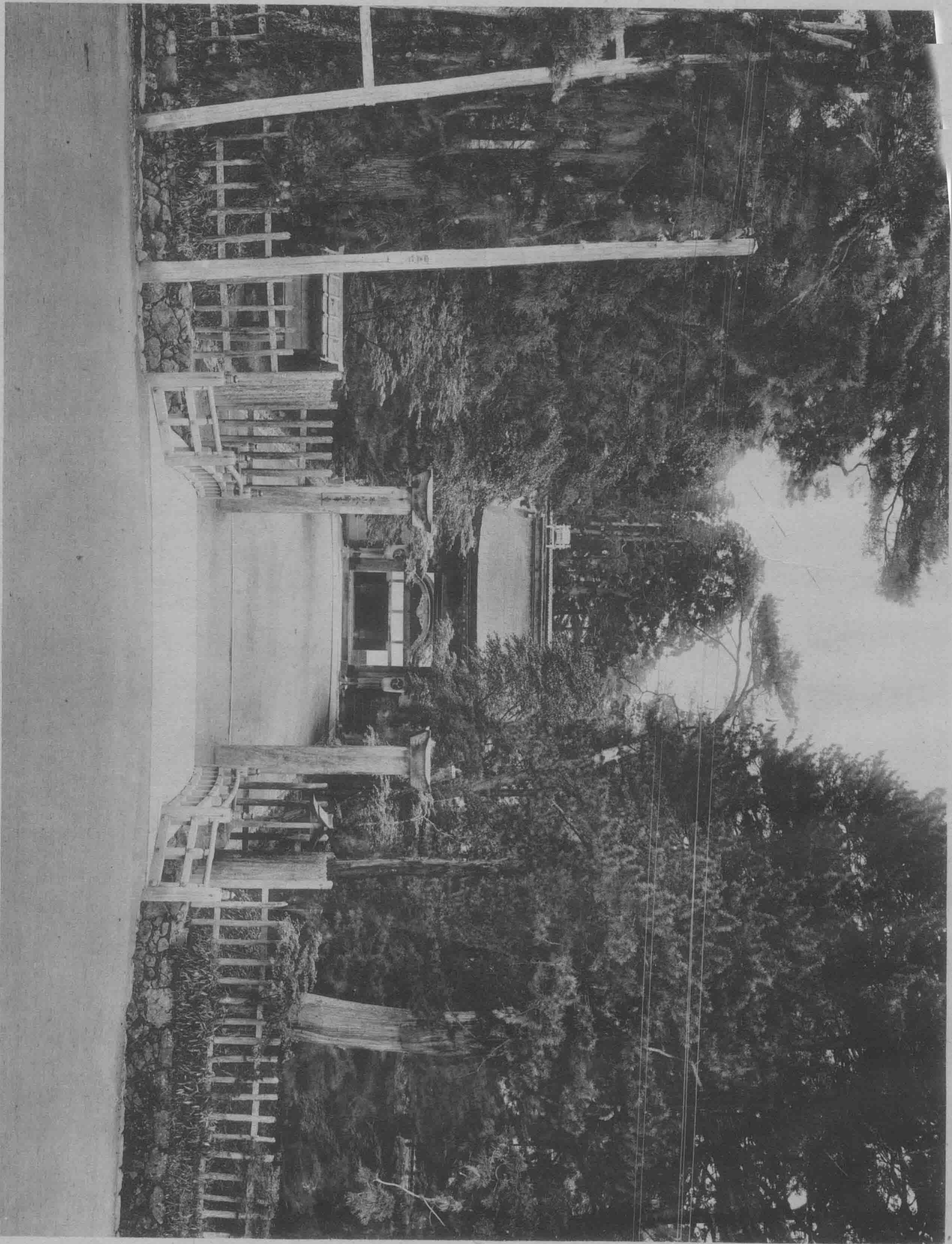
眞言宗の總本山にして、本尊は弘法大師、持佛堂には皇室の御尊儀を奉安す。主殿、庫裡、奥書院、別殿、奥殿、眞然堂、護摩堂、經藏、鐘樓等結構壯大なり。文祿二年豐太閤母堂天瑞寺殿菩提の爲に創建せられ青巖寺と稱せしを、明治元年一山の總稱たる金剛峯寺に改む。爾來管長の住寺として一山統轄の寺務所を併置す。

一九 弘法大師行狀繪卷

地藏院藏

二〇 山水人物圖

通照光院藏



二 弘法大師御影

一幅

傳眞如法親王御筆

絹本著色 竪四尺八寸五分 横三尺八寸三分

親王院藏

卜原於高野之
樹下證認お
静来く雲に
不家白く之影
何物如く之
之是所



三 不 動 明 王 像

一 幅

傳智證大師筆

世に此を赤不動と稱す。

絹本著色 竪五尺四寸四分 横三尺一寸六分

明 王 院 藏



四 阿彌陀如來聖衆來迎圖

三 幅

傳惠心僧都筆

絹本著色 竪六尺九寸 横一丈三尺九寸

有志八幡講組合寺院藏

